

神様に希望をかけ続けましょう

兄弟姉妹の皆さん

暑い毎日、皆さんお変わりありませんか。私たちは聖年を過ごしています。私たちの神様にかけた希望が、暑いからといって枯れることが無いように、旧約聖書から「人間の目には不思議に見えるものですが神様の目にかなっている」を学びましょう。

アブラハムは私たちの信仰の父と呼ばれた人です。

ある日、見知らぬ三人のお客様がアブラハムの近所を訪れました。自分の幕屋に近づいて来るお客様の方へ走って、ひれ伏しながら「どうか私のところを通り過ぎないでください」と願いました。アブラハムの願いに従いこのお客様はアブラハムからのもてなしを楽しみました。アブラハムから出された食事を味わいながら三人のお客様のひとりが「来年の今頃、私はまたここに来ます。その頃には、あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう。」といわれました。当時アブラハムは 100 歳でサラは 90 歳でした。

アブラハムとサラの年齢から見ればまず無理と決まっています。急にそのように言われたことを信じる理由は何ひとつありません。自分の状況にあきらめて、お客様の話の笑いものにしかねない二人でした。しかし、子供を授かりたいとずっと神様に希望をかけたこの二人の老人に喜びが満ち溢れました。イサクが誕生したのです。

子供を持つことは女性のプライドになり、神様に祝福されているしとししてみなされます。アブラハムがハガルとの間に設けた子はサラの喜びではありましたが、子供を産めないという事実と、サラに対してのハガルの見下しはサラの苦しみでした。しかし、すべてが変わり、笑いものしかねないそのお話とサラのたゆまず訴える祈りが実りました。

アブラハムとサラのところを訪れた三人のお客様が全く同じように私達にも訪れるよう希望する必要はありませんが、私たちのそれぞれの状況に応じて神様は必要な助けと恵を与えてくださっていると思います。忍耐をもって希望し続けることが大切です。苦しみに忍耐したサラに対して、神様は「神様の時」に「神様のご計画」によってその苦しみ、またその恥を取り除いてくださったのです。

私達には神様に希望をかける力があります。ただ、たゆまずに祈り、神様にかける希望の妨げと邪魔になるものをすべて私たちの心から取り除いてくださるようにと祈りを通して力を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神様に願いましょう。

希望は欺かない。希望は心のよりどころです。希望は私たちの信仰と愛を生き生きとするものとして支えてくれるのです。

2025 年 8 月 夏休みを無事に過ごせますようにお祈りと祝福をお贈りいたします

カトリック上野毛教会 主任司祭

ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O. C. D.